

教育実践記録

有線放送番組の小学校だより

名草小学校 吉井 良

名草地区の有線放送が発足したのは、昭和32年の3月のことである。そしてこの地区の有線放送企画委員会が32年5月に開かれた。その時、本校の委員として放送部(児童会)係のH先生、理科部(教科研究)の小生とが出席したのである。いろいろな話し合いの中で、小学校でも1週1度位、有線放送で放送する番組を作って放送したらよいのではないか、と言う話が出た。内容としては、小学校のようすなら何でもかまわない、と言うことである。さて学校当局としても、大いなことであると言うことであつたが、そのころしている中に、いろいろいそがしくなり校内委員会も作らない中に、何時のまにか忘れられてしまつたようである。

さて、夏休みがすぎて新学期となり、10月に入つた。まさに運動会のれんしゆうたけなわどつた頃、又この小学校の番組の問題がもちあがつた。最初の予想では、父兄各位の小学校に対する関心がこの番組を通じてより高まるのではないか、ということであつた。又、この地区では、農が主体なので、自然学校を訪ずれる機会も少ないのである。有線放送を利用すれば、学校の最近事情のあらましを幾分でも知ることが出来るのである。そこで、急がしい中にも、各先生方の協により、毎週水曜日、午後7時半から30分間放送することにきめ、その為の放送企画委員会(学校有線放送企画委員会)を構成することになつたのである。ただちに委員会を結成して、委員に年長のS先生になつてもらい、各学年と分校から1人の先生にでもらつた。それに、司会と技術部は小生があずかることになつた。

さて、まず委員会により、これからの計画をたてることに相成つた。長期の見通しとしては、1年内はテストケースとする。又、今月10月は、はじめてでもあるので、特別テストケースとする。この1月間のようすにより今後の対策をねる、と言う考えである。更に委員会は1月に1べん月じめに開き、今月および来月の計画を検討する。放送割当は、1、3、5、2、4、6年の順にして、1月に1べん分校を入れることにした。これは別に理由があつたわけではないが、一応このようにした。そして1回の放送は原則として同学年2クラスで、1クラス15分である。放送の形式としてはテープレコーダーによる録音にする。更に、今月10月中は、運動会もあることだし、いそがしいようであるから、はじめての企画のせいもあつて、技術部が録音をやることになつた。および構成もやる、と言うことにきめた。農業協同組合放送局との連絡には司会があたることになつた。司会の言葉や文句は、大体その時の委員会できめた。その時の委員会では、テーマ音楽のことは話にでなかつたが、第1週目は、「お馬のおやこ」、第2週からは、「めだかの学校」に頼

教育実践記録

有線放送番組の小学校だより

名草小学校 吉井 良

名草地区の有線放送が発足したのは、昭和32年の3月のことである。そしてこの地区の有線放送企画委員会が32年5月に開かれた。その時、本校の委員として放送部(児童会)係のH先生、理科部(教科研究)の小生とが出席したのである。いろいろな話し合いの中で、小学校でも1週に1度位、有線放送で放送する番組を作つて放送したらよいのではないかと、言ふ話が出た。内容としては、小学校のようすなら何でもかまわない、と言ふことである。さて学校当局としても、大層なことであると言ふことであつたが、そうこうしている中に、いろいろいそがしくなり校内企画委員も作らない中に、何時のまにか忘れられてしまつたようである。

さて、夏休みがすぎて新学期となり、10月に入つた。まさに運動会のれんしゆうたけなわとつた頃、又この小学校の番組の問題がもちあがつた。最初の予想では、父兄各位の小学校に対する関心がこの番組を通じてより高まるのではないかと、いうことであつた。又、この地区では、農家が主体なので、自然学校を訪れる機会も少ないのである。有線放送を利用すれば、学校の最近の事情のあらましを幾分でも知ることが出来るのである。そこで、急がしい中にも、各先生方の協力により、毎週水曜日、午後7時半から30分間放送することにきめ、その為の放送企画委員会(小学校有線放送企画委員会)を構成することになつたのである。ただちに委員会を結成して、委員に年長のS先生になつてもらい、各学年と分校から1人の先生にでもらつた。それに、司会と技術部は小生があずかることになつた。

さて、まず委員会により、これからの計画をたてることに相成つた。長期の見通しとしては3年内はテストケースとする。又、今月10月は、はじめてでもあるので、特別テストケースとする。この1月間のようすにより今後の対策をねる、と言ふ考えである。更に委員会は1月に1べん月じめに開き、今月および来月の計画を検討する。放送割当は、1、3、5、2、4、6年の順序にして、1月に1べん分校を入れることにした。これは別に理由があつたわけではないが、一応このようにした。そして1回の放送は原則として同学年2クラスで、1クラス15分である。放送の形式としてはテープレコーダーによる録音にする。更に、今月10月中は、運動会もあることだし、いそがしいようであるから、はじめての企画のせいもあつて、技術部が録音をやることになつた。および構成もやる、と言ふことにきめた。農業協同組合放送局との連絡には司会があたることになつた。司会の言葉や文句は、大体その時の委員会できめた。その時の委員会では、テーマ音楽のことは話にでなかつたが、第1週目は、「お馬のおやこ」、第2週からは、「めたかの学校」に話

きめた。以後調子が良いので現在まで使用している。放送進行中の解説は適当に各担任
生および司会がやることにして、形式にこだわる必要がないと言うこと。大体以上のような
きめて、さつそくとりかかったわけである。正直な話、はじめての企画でもあるし、運動会の
中でもあつたので、仲々困難な事態に直面したの感があつた。

さて、そこで、第1週目の録音に相成つたが、放送用としては当時の学校備品を利用して、新し
購入はしなかつた。

器材として、

- テープレコーダー …………… 東通工
- テープレコーダー …………… 15分用 2巻

これは、15分ずつ録音して、つなぐ方式。
特別テストケースの1月間すぎで、いろいろ委員会にて検討した結果、この特別テストケースは
体好調であること、今後も今までの基本にしたがって活動する。委員会はきめた計画や、機材取
について発表する。それにより運営のすみやかを計る。11月からの録音は各放送番クラスの
生が当る。すなわち、技術部がこれにあたつては、時間的にも、労力的にも殆んど不可能に近い
である。更に、放送内容については、特別に放送用としての録音でなく、通常の学習活動やその
の行事、活動でもよい、むしろのぞましい。その時、はじめとおわりははつきりしなくてもよく、
録音構成の時に解説にて補ふ。録音構成にあたり、原則として、カットのためにテープの切断はや
すに、解説、その他を入れる。これは学校の備品には数に制限があるから当然である。それから
別の行事、事件がある場合には、その実況を放送する。更に放送順序は必ずしも前述の如くで
なくとも、必要に応じて変更する。以上が大體委員会にて決定したことである。テープは、従来の
各クラスに1巻ある15分テープと、別に、放送用30分テープを適宜共用することにより、
1週間分、来々週分の録音をもできるように用意した。

さて、この特別テストケースより、次のようなことがわかつた。
音放送は、音調が大分変わること気がついた。それからどうも声がわれやすいことがわかつ
これらのことについて、本校のテープレコーダーと放送局のものが同社の製品でないためである
しかたがない。声がわれやすいと言う問題は、少なくとも2米以上はなれて録音する。そし
ボリュームをあまりあげないこと。調子は幾分硬めにする。

以上注意すれば大體良好である。録音のときのボリュームは、教室内であれば1/3から半分程度で
半分以上あげると、どうしても内部雑音が発した時めだつてくる。ところが、悪いことに
このテープレコーダーのボリュームが不良となつてしまつたので、「ザザザ。」と言う音が出て
つたこともある。マイクロホンはダイナミック型を使用し、マイクの下にふとんをおくと、床
にまつてくる雑音、特に振動音を防ぐことが出来る。マイクは教室一斉に録音する場合には天

井に向け、反射音声を入れた方がよりよいようである。しかし、特に低学年では、小声で本をよめるものがあるから注意を要する。マイクの位置は、普通の教室内ならば大体どこにおいても大丈夫である。このことは東通工のテープレコーダーの性能が良いからである。感度が良いことは一面においてこまることがある。それは、用もない外でしゃべっている声やろう下の足音などが入ってしまうからである。対策として、本校では特別に考えてはいないが、一応各先生方に連絡するなり、授業中にやるなりしている。そして大体支障ない。これは、都市内でないので道路交通が静かなところもある。録音内容の点については、どうしても音声を対象となる故に、国語とか児童委員会、音楽などがいちばんやりやすいようである。本格的に放送を行う場合には、各教科とも退くつするよくなことなく聞かれるように吹込むよう考えねばならないだろう。どうしても思考や実験の教科では、その録音構成が困るのである。しかし解説を以つて補えば良好となるであろう。

児童側は自分達の声が自分の家の人達に聞かれるので、多少緊張するようである。しかし録音時の進行はスムーズである。放送を行なつた翌朝、児童や家の人々に聞くと、参加した児童ははずかしいのか、自分の声が出る所でボリュームをしばつてしまうものもいたそうである。しかし、自分の家の子の声が聞かれると言うので、父兄達は非常な関心をもつたようである。そして、放送の時この誰の声と言うのがはつきりするともよりよいようである。

以上が大体、特別テストケース期間10月のまとめである。10月より毎週水曜日に放送を行つて現在に至つている。32年内在がテストケースであつたが、結局はいろいろな点から今年度中がテストケースになつてしまつたようである。10月以降のことについては、まだまとめてありませんので後日の機会にゆずりたいと思います。

昭和33年2月